試

四年

画数 13
筆順 言 言 言 試
オン シ
クン こころ＝みる・ため＝す

成り立ち

〝形式（型）〟の意味を表した〝式（3年316）〟と、言うという意味の〝言〟とを組み合わせて作った字です。

「形式にしたがって言ってみる」ことを表した字で、「〝ためし〟に言ってみる」という意味の字です。

「ためす（こころみる）」という意味に使われます。例 試験、試合、試作（品）。

〔音のシは、〝式〟の音のキがおちたもの〕

使い方

▽ある溶液がアルカリ性か酸性かを試すには、リトマス試験紙をつかいます。青いリトマス試験紙を酸性の溶液にひたすと、赤くなります。赤いリトマス試験紙をアルカリ性の溶液にひたすと、青くなります。

▽ボールをゴールに入れようと、何回も試みましたが、とうとう一回も入りませんでした。

熟語例

▽試験（物の性質や力などを試すこと。また、学力などを試すために、問題を出して答えさせることをいいます。）

▽試合（競技などで、互いに力くらべをすること。「柔道の試合で、初段の人が二段の人を負かしました」などというふうに、つかいます。）

▽試作（試みに作ってみること。「これは、まだ試作品ですが、なかなか良くできています」などというふうに、つかいます。）

▽試食（試しに食べてみること。「新しい果物の試食会があって、行ってみたが、たいへん良い味だった」などというふうに、つかいます。）

児

四年

画数 7
筆順 1 冂 旧 旧 児
オン ジ・ニ
クン

成り立ち

もとは〝皃〟で、頭が体にくらべて大きく見える〝おさな子〟を表した字です。

〝おさな子〟、または〝子ども〟という意味を表した字で、〝幼児〟、または〝児童〟などと使われます。

また、〝わかもの（若者）〟の意味にも使われます。例 健児、風雲児。

使い方

▽道で、幼児を連れている女の人とであいました。その子は、アイスクリームを食べたいと、だだをこねていました。幼い子供が泣いていると、たいていはかわいそうだと思いますが、だだをこねて泣いている時だけは、うんざりして、かわいそうだなどとは、ちっとも思いません。

▽戦国時代の風雲児、織田信長の本を読みました。小さな国の国主の息子に生まれながら、まわりの大国と戦って、もう一息で日本を統一するところまで行った織田信長は、すごい人だったと思います。

熟語例

▽幼児（幼い子供）

▽児童（子供。とくに、小学生のことを言います。）

▽健児（健康な若者。血気盛んな若者。校歌などに、よく「〇〇の健児」などと出て来ます。）

▽風雲児（風雲に乗って活躍する若者。伝説に、竜が雲に乗って天に舞い上がるというものがありますが、英雄が時を得て大活躍をするのを、この竜にたとえて、「風雲に乗る」というように言ったものです。）